

授業科目名	教育行政論演習
科目番号	CB24182
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春AB 金4
担当教員	古田 雄一
授業概要	近年の教育政策や教育改革の動向を取り上げ、その内容や背景、影響や課題などについて、受講者の発表や討議に基づいて多角的に検討し合い、これからの日本の公教育のあり方について考究する。
備考	対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	批判的・創造的思考力 教育学における総合的思考力 教育学的実践力
授業の到達目標（学修成果）	(1) 近年の日本の教育改革の背景や潮流について説明できる。 (2) 近年の日本の教育改革の影響や課題について多角的、批判的に考察できる。 (3) これからの日本の公教育のあり方について教育行政・政策の視点から考察できる。
授業計画	<p>近年の教育改革や政策上のトピックや事例について、政策文書や関連資料、文献をもとに検討しあう。</p> <p>受講者の関心をもとに扱うテーマを決定し、担当するテーマ別にグループ（人数によっては個人の場合もあり）に分かれ、それぞれで調査と発表を行い、それに基づく討議を中心に授業を実施する。</p> <p>取り上げるテーマは、受講生と相談して決定するが、例えば以下のようなものを考えている。</p> <p>テーマ例：個別最適な学びと協働的な学び（に関わる政策動向）、教育におけるデータ活用／エビデンスに基づく教育、部活動の地域移行、生徒指導提要改訂、こども基本法／こども家庭庁／こども大綱、子どもの意見反映、不登校に関わる政策や事例、COVID-19の子どもへの影響 など</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 発表準備の経過中間報告と相談 第3回 受講者による発表と討議（1） 第4回 受講者による発表と討議（2） 第5回 受講者による発表と討議（3） 第6回 受講者による発表と討議（4） 第7回 受講者による発表と討議（5） 第8回 受講者による発表と討議（6） 第9回 受講者による発表と討議（7） 第10回 まとめと振り返り</p>
履修条件	特になし。 （「教育行政論」を履修していると理解が深まります。）
成績評価方法	発表内容（50%）、討議への参加状況（50%）に基づいて評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>討議（100%）</p> <p>担当するテーマについて、調査（政策文書や関連資料、文献等の検討）を行い、発表に向けて準備すること。</p> <p>また、そのほか取り上げるテーマについても関心をもち、情報や資料を積極的に収集</p>

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	し、目を通して見てほしい。
教材・参考文献・配付資料等	全体にかかわる参考文献として、以下を挙げておく。 1．村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年。 2．松岡亮二編著『教育論の新常識』中央公論新社、2021年。 3．大桃敏行・背戸博史編『日本型公教育の再検討 自由、保障、責任から考える』岩波書店、2020年。
オフィスアワー等（連絡先含む）	まずはメールにて連絡してください。 furuta.yuichi .gp@u. tsukuba. ac. jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	受講者による発表と討議を中心に進める授業のため、積極的な参加を期待します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	教育政策、教育改革、公教育